

「新しい東北」官民連携推進協議会

**令和4年度
意見交換会(第2回)**

宮城県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2022年10月19日

1. 本日の論点
2. 第1回意見交換会の振り返り
3. 令和4年度実践の場の具体案について
 - ① 今年度の取組の狙い・全体像
 - ② エクスカーションプログラム骨子案
 - ③ 実践の場 具体案
 - ④ 数値目標案
4. 意見交換
5. 今後のスケジュール

● 1. 本日の論点

実践の場実施に向けて、プログラム内容等に関する議論をさせていただきます。

論点 1	実践の場（モニタリングツアー）実施にあたり、目的の再確認
論点 2	エクスカージョンプログラム案に関する意見及び協力いただく団体
論点 3	実践の場（モニタリングツアー）にお招きする団体、ツアー後の意見交換の内容等
論点 4	目的達成に向けて副代表団体として支援・関与できること

● 2. 第1回意見交換会の振り返り

○ 第1回意見交換会にて、皆様よりいただいたご意見に対する回答及び反映状況を下記の通り整理。

No,	主な意見	回答・反映
1	<p>●<u>取り組みテーマについて</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「持続可能な地域文化の継承」ということで、復興に関して今までの地域をさらに磨き上げて、再度情報発信をしていくというイメージはつくのだが、一方で「震災とどう絡んでいくのか」がすごく難しい 「観光」と「震災」のどこに重点を置くかは慎重に検討しなければいけない 震災がマイナスだと思ってしまうことは違うと思う。上手く取り上げていければと思う 地域文化の継承と磨き上げの中に震災の遺構や語り部を加えていくという話は、大きな部分では必要だと感じている 「観光」とからめていくことの必要性は十分に認識しているが、一方で実際に被害に遭った方々に対する配慮はまだ必要である 観光資源にすることに対してはやはり抵抗感があるという話もあるが、何らかの形で配慮しながらも、実際にはやっていかなければいけない部分だと考える 普通は観光というどうしても「見る」とか「話を聞く」というだけだ。来訪した人たちに参加してもらいながら地域文化を作っていくようなことができれば、もう少し違ったものになるのかなという気がする 国連が推進しているSDGsと並ぶ世界の3大アジェンダの1つに、災害によって亡くなる人や経済被害を2030年までにどこまで減らしていけるかという「仙台防災枠組2015-2030」があり、これをしっかりと推進していくことは、我々に課された社会課題である 広島原爆被害に関する取り組みをモデルケース、ベンチマークとしながら東北地域でいろいろな施策を展開し、被災4県が「世界の人々が訪れるべき場所」として位置づけられるような姿を目指していけたらいいのではないかなと思う 	<p>テーマの方向性は合意いただいたものの、震災と観光、地域文化の継承と観光のバランスをどう考えるかという論点があるものと考えています。こうした点も含め、今年度の取組の狙い・全体像について再整理し、P.5～7に記載しました。</p> <p>また、「仙台防災枠組2015-2030」について、参考資料1（P.2）を、広島原爆被害に関する取組について参考資料1（P.9～14）を用意しました。</p>
2	<p>●<u>エクスカージョンプログラムについて</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「観光」という言葉を使うのではなく、「エクスカージョンプログラム」がいいのではないかなと思っている コロナ禍前、仙台では数多くの国際会議、学会、ビジネス研修会が開催されていた。そこに1～2泊で来る方のために、必ずハーフデイやワンデイのエクスカージョンプログラムがいくつか用意されていて、課題や興味に合わせて参加していただいていた 学会などのエクスカージョンプログラムとして震災遺構や語り部の方々とからんでいくことは、良いのではないかなと思う まずエクスカージョンプログラムのような形の商品を磨き上げていくことが、今年の課題にマッチするのではないかなと考えている。プログラムが磨き上げられていて、徐々に一般のツーリズムに乗っていく形になるのが1つのステップかなと考える 	<p>エクスカージョンプログラムの狙いについてP.6、7に整理しました。</p> <p>また、エクスカージョンプログラムの事例として、参考資料1（P.3～8）及び参考資料2を用意しました。</p>

● 2. 第1回意見交換会の振り返り

No,	主な意見	回答・反映
3	<p>●<u>持続性について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連続性のある取組が実現できればと思う ・ 継続的な取組ということで、KPIなどを設定した上で取り組みをしていくことも重要である ・ 石巻では門脇小学校も展示が開始され、記念館もできている。そうした施設がサステナブルな形でちゃんと回っていくような仕組みを作り、永続的に伝承を実現できる場にしていくことが必要だと思っている 	<p>中期的な視点はP9に将来ビジョンを記載しました。</p> <p>また、地域文化の継承や震災伝承に係る内容を取り入れたテーマ案を検討し、エクスカーションプログラムの骨子案を作成しました（P.9）。</p>
4	<p>●<u>視察先・内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三井アウトレットパーク、麒麟ビールは被災されており、うみの杜水族館は逆に復興のシンボルとして建てられた経緯がある ・ 教育という観点では、東北大学として震災に関する出前授業をやっている。出前授業は社会人向けも可能である。同じコンテンツを使いながら、伝え方は対象に合わせて配慮できる ・ 仙台港・仙台東部沿岸部付近では、貞山運河を土台として地域文化を世に広めていこうとする「一般社団法人貞山運河ネット」という団体ができた ・ 貞山運河は伊達政宗が築き上げてきた土木遺産だが、それをベースとしてブランディングしていくという形だ。我々も協力し、今は仙台市、名取市と連携しているが、今後は自治体や関係者を拡大し、広域の連携につなげていきたいと思っている 	<p>ご意見を参考に具体的なエクスカーションプログラム案を策定（P.10～12）しました。</p>
5	<p>●<u>エクスカーションプログラムのような取組を行う際の課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に修学旅行の訪問先として考えたとき、3ケタの人を収容できる伝承施設はなく、全て規模が小さいという問題がある。修学旅行で訪れようとしても、小グループでいくつが行き先を分散してくださいとお願いしなくてはいけないのが現状となっている ・ 受け入れ態勢を地元で考えていくことも必要だろう 	<p>今年度の実践の場において、参加者による意見交換会等を通じて、左記のような課題を抽出し、解決方法等について議論できればと考えています。</p>

● 3. 令和4年度実践の場の具体案について（① 今年度の取組の狙い・全体像）

1. 今年度の意見交換会・実践の場の進め方について

- 第2期復興・創生期間の「新しい東北」の取組では、地域の取組や取組を通じて得られた知見を被災地内外に普及展開することが重要。
- 2023年のG7、2025年の大阪・関西万博、各種MICE等により、国内外から東北に訪れる方が生じる機会をとらえ、具体的なプロジェクトの企画・実施を通じて、地域の抱えている課題解決や国内外への情報発信につなげていってはどうか。

2. 今年度の意見交換会・実践の場のテーマ・取組内容案について（※第一回意見交換会事務局資料抜粋）

テーマ案：「持続可能な地域文化の継承と磨き上げ」

●テーマ設定の背景

宮城県ではこれまで観光振興と地域文化の継承を結び付けて議論を進めてきた経緯がある。多くの研究から観光と地域文化の継承は密接な関係があることは立証されており、この考え方は文化という側面から持続可能な地域を実現するために有効であると考え。よって、今年度の意見交換会・協議の場では観光による地域文化の継承を重要テーマと位置づけ、主に宮城県沿岸地域を舞台とした観光誘客に向けた磨き上げを行っていくこととする。なお、地域文化には震災遺構も含まれるものとする。

●テーマ設定の目的

地域のプレイヤーのみならず、地域外のプレイヤーも巻き込んでこれからの三陸地域の在り方を検討することで、人口減少等の社会課題にも打ち勝つことができる持続可能な地域づくりを目指す。

⇒ 具体的なプロジェクトとして、2023年のG7、2025年の大阪・関西万博、各種MICE等を見据えた、宮城県沿岸のエクスカージョンプログラムを検討してはどうか。

● 3. 令和4年度実践の場の具体案について（① 今年度の取組の狙い・全体像）

3. エクスカーションプログラムの狙い

- エクスカーションプログラムの実施による効果を以下整理。（エクスカーションプログラムの事例：参考資料1、2 参照）

MICE参加者の観光消費額向上

1) 観光消費効果

震災遺構や地域文化を活かしたエクスカーションプログラムを策定することで、東北域内のMICE実施時における観光消費額向上に結びつける。これにより、地域文化の観光消費による収益化を図り、地域文化継承につなげる。



2) 情報発信効果

防災に関する学びを組み込んだエクスカーションプログラムを実施することによりニュースバリューを高め、震災の記憶の風化を防ぐ。



知名度の向上により震災の記憶の風化を防ぐ



3) 事後誘客効果

MICEは政府機関や学者、研究者など知識層が主な参加者となる。アフターコンベンションと呼ばれるエクスカーションプログラムは、これら知識層に対して宮城県沿岸地域の状況を知らせる絶好の機会であり、帰国後に他の会議や視察等の機会創出につながる。

帰国後の機会創出へ



- なお、沿岸地域の観光振興は地域活性化に有効な手段であるものの、振興にあたっては被災者感情に配慮し進める必要がある。
- このため、今回の検討では一般旅行向けの商品ではなく、MICE等による限定された人を対象とするエクスカーションプログラムを推進することで、被災者感情に配慮した観光振興を進めることを狙いとする。

● 3. 令和4年度実践の場の具体案について (① 今年度の取組の狙い・全体像)

4. エクスカーションプログラム振興に向けた宮城県の課題

● SWOT

- ・弱み：局地的にはプログラムがあるが面に対応できない / 公共交通機関が少ない
- ・強み：エクスカーションプログラム実施に必要なコンテンツ、事業者が多数存在する
- ・機会：大型MICEが控えている
- ・脅威：準備不足による機会ロス

● 課題の整理

- ・宮城県沿岸で1日又は半日の行程で対応できるエクスカーションプログラムが無い
 - ・現地の語り部は局地的に案内できるが、行程全体で案内できるガイドが居ない
- ※以降言葉の定義として現地の語り部を「語り部」とし、行程全体のガイドを「ガイド」と記載する
- ・国際会議に対応するための多言語に対応したガイドが居ない
 - ・これらを推進するための体制が整っていない



現状の課題を放置せず、エクスカーションプログラム推進に向けた準備を進めることで、
2023年G7開催時（仙台会場）、緑化フェア、2025年大阪・関西万博に向け、
宮城県沿岸のエクスカーションプログラムを確立し、地域文化の継承につなげる。

● 3. 令和4年度実践の場の具体案について（① 今年度の取組の狙い・全体像）

5. 将来ビジョン（イメージ）

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		G7大臣会議・緑化フェア	国際会議等	大阪万博
ルート	a. 宮城県沿岸エクスカーションプログラムの造成（3ルート）	a. 継続 b. テーマを拡充したエクスカーションプログラムの造成（3ルート）	a. 継続 b. 継続 c. ルート拡充	計10ルート
	第3回意見交換会において次年度以降の意見交換会での関与方針について検討			
受入れ	a. 仙台港周辺賑わい創出コンソーシアム ※JTBコミュニケーションデザインが支援	a. 左記 b. 左記又はDMO、観光関連団体	a. 左記 b. 左記又はDMO、観光関連団体	a. 左記 b. 左記又はDMO、観光関連団体
手配	a. ランドオペレーター ※未決定	a.b ランドオペレーター 実販売開始	a.b.c ランドオペレーター	ランドオペレーター
販売	a. 旅行会社、会場、イベント会社 ※未決定	a.b 旅行会社、会場、イベント会社 海外現地へのセールス ※県との連携	a.b.c 旅行会社、会場、イベント会社 海外現地へのセールス ※県との連携	万博会場での紹介
目指す姿 KPI	➢ ルート3本策定 ➢ モニタリングツアーの実施 ➢ 販売方法の方針策定	➢ 販売手法・体制の確立 ➢ 新規ルート3本策定 ➢ 受入れ開始（10本催行）	➢ 新規ルート4本、計10本完了 ➢ 受入れ継続（30本催行）	➢ 万博会場での紹介 ➢ 万博会場からツアー受入れ（100本）

将来ビジョン

● 3. 令和4年度実践の場の具体案について（②エクスカーションプログラム骨子案）

- 今年度、主団体においては、宮城県沿岸のエクスカーションプログラムを3ルート検討している。内容及び協力いただく団体候補に関して意見交換を行いたい。
- また、実践の場では、このうち、1コースを体験するとともに、参加者による意見交換会を開催することにより、エクスカーションプログラムの造成・販売に向けた課題の抽出や販売方法・体制について検討することとしてはどうか。

項目	内容
タイトル案	災害リスクの実際と防災を学ぶ「宮城県沿岸エクスカーションプログラム」
対象	・ 東北主要都市におけるMICE参加者
推進主体	・ 実践の場において協議
エクスカーションプログラムイメージ	<p>●テーマ（案）</p> <p>1）：「復興の今を知る」 地域の産業の復興の姿を知る</p> <p>2）：「語り部による震災の記憶」 語り部による震災体験</p> <p>3）：「地域文化と防災」 地域文化の継承と災害リスク</p> <p>●行程</p> <p>A. 半日コース（専用車による移動）</p> <p>B. 1日コース（専用車による移動）</p>
エクスカーションプログラム実施に向けた関係事業者（想定）	<p>仙台うみの杜水族館 / 三井アウトレット仙台 / キリンビール仙台工場 / 鐘崎総本店笹かま館</p> <p>JRフルーツパーク / せんだい3.11メモリアル交流館 / 震災遺構荒浜小学校 / かわまちテラス閑上</p> <p>キリンビール工場 / アクアイグニス仙台 / 多賀城市（多賀城政庁跡） / 貞山堀（検討中）</p> <p>津波防災タワー（仙台防災枠組） / 山元町 ICHIGOWORLD / 三井系ホテル</p> <p>センティア / 2525タクシー</p>

● 3. 令和4年度実践の場の具体案について（②エクスカーションプログラム骨子案）

1）：「復興の今を知る」地域の産業の復興の姿を知る

月日(曜)	交通手段	現地時間	行 程		
1	専用車	08：15	仙台駅東口貸切バス駐車場に集合 乗車手続きおよび検温などを済ませて乗車		
		08：30	出発		
		09：10	麒麟ビール仙台工場へ到着		
		09：30	『東北大学出前授業』（90分）		
		11：10	麒麟ビール仙台工場施設見学（50分）		
		12：00	施設内レストランにて昼食（60分）		
		13：30	アクアイグニスを訪問（60分）		
		14：50	閑上・かわまちテラスを散策（40分）		
		15：40	閑上・佐々木酒造店を訪問して店主の話を聞いたり試飲・購入		
		16：40	仙台へ向けて出発		
		17：20	仙台駅にて解散		
			朝食：×	昼食：○	夕食：×

- 地震・津波で被災後に操業再開した麒麟ビール仙台工場にて、『東北大学出前授業』開催後、工場を視察する
- アクアイグニスは復興の拠点であり、周辺住民の希望のシンボルとしての位置づけ
- 産業をテーマとするため、様々なお店が立ち並ぶ“かわまちテラス”を視察先に入れる
- 佐々木酒造では、津波で本社および酒蔵が全滅するも翌年には仮店舗で酒造りを開始し現在に至る経緯を聞く

● 3. 令和4年度実践の場の具体案について（②エクスカッションプログラム骨子案）

2）：「語り部による震災の記憶」語り部による震災体験

月日(曜)	交通手段	現地時間	行 程		
1	専用車	08：15	仙台駅東口貸切バス駐車場に集合 乗車手続きおよび検温などを済ませて乗車		
		08：30	出発		
		09：10	キリンビール仙台工場へ到着		
		09：30	『東北大学出前授業』（90分）		
		11：10	キリンビール仙台工場施設見学（50分）		
		12：20	奥松島クラブハウスにて昼食（40分）		
		13：00	トイザらス石巻矢本駐車場へ移動		
		13：10	東松島の震災語り部ツアーに参加（90分）		
		15：30	仙台市立荒浜小学校にてガイドツアーに参加（70分）		
		16：40	仙台へ向けて出発		
		17：20	仙台駅にて解散		
			朝食：×	昼食：○	夕食：×

- 地震・津波で被災後に操業再開したキリンビール仙台工場にて、『東北大学出前授業』開催後、工場を視察
- 奥松島クラブハウスは津波などの被害を受けた野蒜地区作った新たな観光施設
- 東松島はすでにある既存の語り部ツアーに参加
- 荒浜小学校は若松俊介氏によるガイド（多言語対応可）

● 3. 令和4年度実践の場の具体案について（②エクスカージョンプログラム骨子案）

3) :「地域文化と防災」地域文化の継承と災害リスク

月日(曜)	交通手段	現地時間	行 程		
1	専用車	08 : 15	仙台駅東口貸切バス駐車場に集合 乗車手続きおよび検温などを済ませて乗車		
		08 : 30	出発		
		09 : 00	仙台うみの杜水族館へ到着		
		09 : 20	『東北大学出前授業』（90分）		
		11 : 00	仙台うみの杜水族館施設見学（60分）		
		12 : 30	東北歴史博物館施設内レストラン『Green Gable』にて昼食（60分）		
		13 : 40	多賀城『政庁』を見学（40分）		
		14 : 30	多賀城外郭『南門』を見学（30分）		
		15 : 50	瑞鳳殿のガイドツアー（70分）		
		17 : 15	仙台へ向けて出発		
		17 : 30	仙台駅にて解散		
			朝食：×	昼食：○	夕食：×

- 被災し閉館したマリニピア松島水族館を引継ぎ、復興を象徴する仙台うみの杜水族館にて、『東北大学出前授業』を開催後、仙台うみの杜水族館施設を見学する
- 昼食は古代米などを使った古代文化に触れたメニュー
- 震災復興のシンボルとして復元された多賀城「政庁」・「南門」を見学する
- 瑞鳳殿のガイドツアーは仙台の文化を知る

● 3. 令和4年度実践の場の具体案について（③実践の場 具体案）

項目	内容
タイトル案	「宮城県沿岸地域エクスカージョンプログラム」モニタリングツアー
実践の場の目的	宮城沿岸地域エクスカージョンプログラムの造成・販売に向けた課題の抽出及び販売方法・体制の検討
実践の場参加者（案）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 副代表団体 ・ 主団体（仙台港周辺賑わい創出コンソーシアム） ・ 前ページ記載の関係事業者（10名） 計20名程度
実践の場イメージ	<p>● 10:00～15:00 エクスカージョンプログラムモニタリングツアー ・行程案（P.10～12参照）より1テーマを選定の上実施</p> <p>● 15:15～17:00 @うみの杜水族館 参加者によるツアー後の意見交換 ・エクスカージョンプログラムの内容に対する意見交換 ・販売体制に関する意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 受入れ体制 ➢ 手配体制 ➢ 販売手法
ゴールイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ● エクスカージョンプログラムの磨き上げ ● 次年度以降の取組に向けた関係者の認識共有・協働体制の構築

● 3. 令和4年度実践の場の具体案について（④数値目標案）

項目	目標値
①実践の場へお招きする方の数	10人
②今年度のエクスカーションプログラム造成数	3ルート
※2023年度以降 ③エクスカーションプログラム造成数	10ルート以上
※2023年度以降 ④エクスカーションプログラム参加者数	100人以上

● 4. 意見交換

論点 1

実践の場（モニタリングツアー）実施にあたり、目的の再確認

目的：宮城県沿岸エクスカッションプログラムの造成・販売に向けた課題の抽出及び販売方法・体制の検討

- エクスカッションプログラムに対する改善点等の抽出
- エクスカッションプログラム推進にあたっての課題等
- 販売方法・体制の整理

論点 2

エクスカッションプログラム案に関する意見及び協力いただく団体

- エクスカッションプログラム3ルートに対する改善点等
- 追加すべきプログラムとそれに伴う団体等

論点 3

実践の場（モニタリングツアー）にお招きする団体、ツアー後の意見交換の内容等

- 手配を担当する候補事業者
- 販売を担当する候補事業者
- その他、お招きする事業者・団体（自治体、観光協会、DMO等）
 - ・ 例えば来年度以降のルート造成等に当たり、今年度の実践の場から関与いただいた方がよい団体等はあるか。

論点 4

目的達成に向けて副代表団体として支援・関与できること

今年度の実践の場や来年度以降の取組を見据え、例えば以下のような点など、副代表団体として支援・関与できることはあるか。

- 東北大学様 ： 出前授業をエクスカッションプログラムに組み込むことは可能か。
 ： アカデミック視点によるエクスカッションプログラムの評価をいただきたく、参加を募ることは可能か。
- 七十七銀行様 ： エクスカッションプログラムの実施及び販売にあたり、連携可能な貴行の取組はあるか。
- 連携復興センター様： 連携可能な貴センターで取り組まれている事業はあるか。
 ： 2023年のルート拡充にあたり、本年度お招きすべき団体等はあるか。
- 宮城県庁様 ： 県の取組との連動を視野に入れ、実践の場や意見交換会への他部署の招請、情報共有について必要性をご検討ください。

● 5. 今後のスケジュール

月日	内容	備考
10月11日～14日		
10月17日～21日	第2回意見交換会	
10月24日～28日	議事録整理・実践の場内容の修正	
10月31日～11月4日	議事録確定・実践の場内容確定・お招きする団体調整・声掛け開始	
11月7日～11日		
11月14日～18日	お招きする団体確定	
11月21日～25日	実践の場実施に向けた準備開始	
11月28日～12月2日		
12月5日～12月9日		
12月12日～16日		
12月19日～23日		
12月26日～1月6日		
1月9日～13日		
1月16日～20日		
1月23日～27日		
1月30日～2月3日	実践の場（1月30日）※案	
2月6日～2月10日	実践の場検証資料作成・第3回意見交換会資料作成	
2月13日～17日		
2月20日～24日	実践の場検証資料確定・第3回意見交換会資料確定	
2月27日～3月3日	第3回意見交換会	